

はじめに

本手引書は、除染前後の放射線の低減率（除染効果）を適切に測定・評価することを目的としたものである。

【背景】

除染が適切に行われ、放射性物質が除去されたことを確認するためには、除染対象箇所の放射線測定を除染前後に行って評価する必要があるが、現在広く行われている測定方法では、除染対象外のエリアからの放射線の影響を受けて、除染対象箇所の正確な評価ができない、測定方法にバラツキがあるため除染前後や異なるエリア間の比較ができない、などの問題点がある。また、除染効果を評価するためにはどの程度の測定点数が必要なのか、なども曖昧である。

本手引書は、上記問題点を解決し、適切な除染効果の判定が可能となるための糸口となるよう執筆したものであり、実際の現場担当者が現地の状況に応じた最適な測定方法を選択し、より正確な測定を行うための指針となることを目指したものである。

なお、1m高さにおける広範囲の空間線量率分布の測定など、除染効果の判定を目的とした測定以外の放射線測定については、無人ヘリや自動車の走行サーベイなど、様々な効率的な測定方法が存在するため、本手引書の対象外とする。

また、本手引書はあくまで除染現場の担当者に具体的な測定方法とその考え方を示すものであり、国のガイドラインや工事の仕様書等で決められた測定方法がある場合には、これに優先するものではない。

【本手引書の概要】

本手引書は、「放射線測定場所の選定」（第1章）、「放射線測定方法の選択」（第2章）、「放射線測定の実施」（第3章）、「除染効果の確認」（第4章）で構成される。

第1章では、除染効果の適切な評価のために、まずは除染実施エリアをどのようなエリアに区分し、各区分ごとにどの場所または何箇所放射線測定を行うことが適切かについて述べる。

第2章では、各区分エリアの特徴に応じてどのような放射線測定方法を用いるのが適しているのかについて述べる。

第3章では、実際の測定手順および留意点について述べる。

第4章では、得られた測定結果を用いて、除染が適切に行われたか判断する方法について述べる。

なお、本手引書の執筆にあたっては、川内村、伊達市のご協力のもと、実際の除染現場で実証試験を行い得られた知見を反映した。実証試験は今後も継続実施する予定であり、新たな実証試験による知見を反映して、本手引書も改訂を行っていく予定である。